

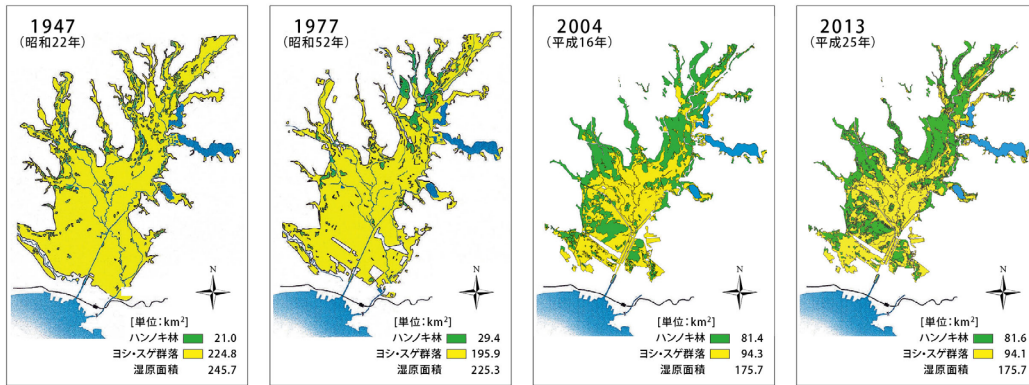
# 釧路湿原の未来を考えてみよう

## 釧路湿原の自然再生事業

釧路湿原には、貴重ですばらしい自然が多く残されています。しかし、戦後の都市開発・農地開拓などによって湿原が縮小し、自然環境にも変化が現れています。同時に湿原生態系の変化を示すハンノキ林の増加など、植生も変化しました。このような状況を受け、釧路湿原自然再生協議会

を中心とした「**自然再生事業**」により、釧路湿原らしい植生を守ることを重点に取り組んできました。

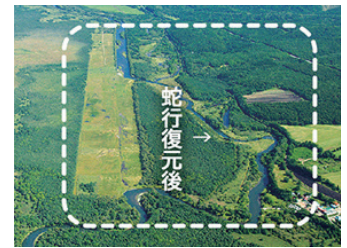
その一方で、今後は**気候変動**による気温の上昇や洪水の増加の影響を受け、さらなる湿原の縮小や環境の変化が生じる可能性があります。



	1947年	1977年	2004年	2013年	1947年と比較した場合の変化
質的变化	ハンノキ林 約20km <sup>2</sup>	約30km <sup>2</sup>	約80km <sup>2</sup>	約80km <sup>2</sup>	約4倍増
量的変化	湿原面積 約250km <sup>2</sup>	約230km <sup>2</sup>	約180km <sup>2</sup>	約180km <sup>2</sup>	約3割減



↓直線部分を埋め戻し



自然再生事業による自然の蛇行した河川への復元

気候変動により、釧路湿原にはどのような影響があるのでしょうか？  
気候変動から**湿原を守る**ために何ができるのでしょうか？

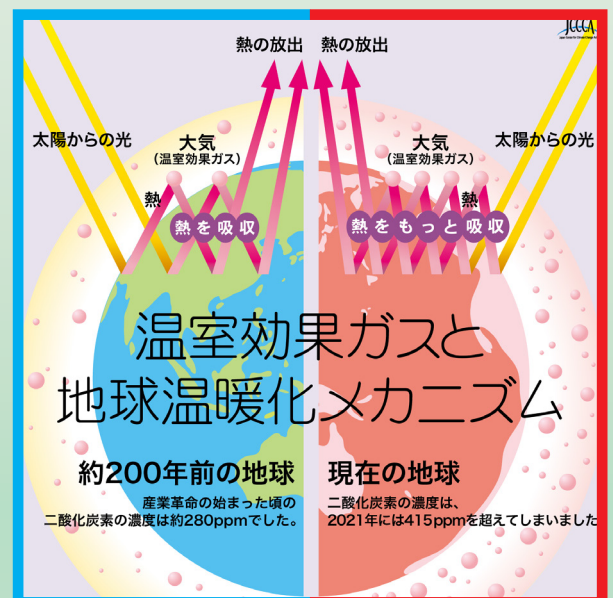
気候変動の対策を進めなかった場合の約4℃上昇シナリオによる予測

## 気候変動とは？

地域ごとの雨の降り方や天気傾向を気候といいます。二酸化炭素の増加などによって地球温暖化が進行し、**気候が大きく変化**することが気候変動です。



イラスト：気候変動適応情報プラットフォーム



JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センターより

釧路湿原の未来を  
考えて  
みよう

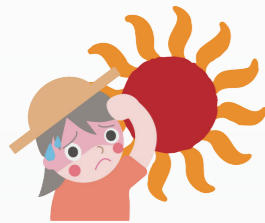
# 将来の気候は どうなるのでしょうか

釧路湿原の未来を  
考えて  
みよう

# 釧路湿原には どのような影響が 出るのでしょうか？



## 2100年の日本全体の気候は、2000年と比べてどのようになるのでしょうか？



- 平均気温が**約4.5°C**上昇します。  
猛暑日や熱帯夜はますます増加し、  
冬日は減少します。



- 激しい雨が增加、強い台風の回数も増加します。



- 海面水温が**約3.45°C**上昇します。
- 海面水位が**約0.68m**上昇します。
- オホーツク海の海水は大幅に減少します。



- 降雪・積雪は減少します。

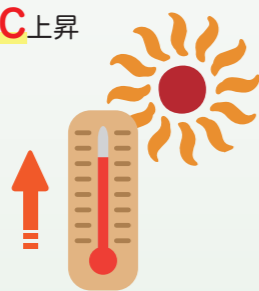
文部科学省・気象庁「日本の気候変動2025」より



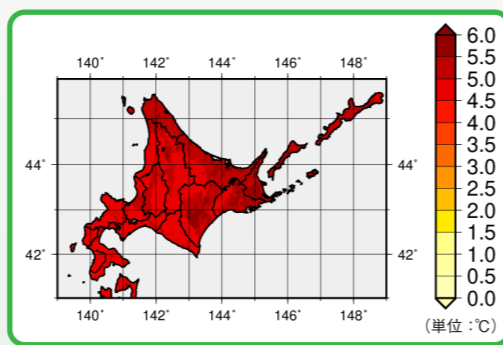
## 2100年の北海道全体の気候は、2000年と比べてどのようになるのでしょうか？

- 平均気温の**約5.0°C**上昇
  - 豪雨の増加
  - 雪の減少
- が予測されます

文部科学省・気象庁  
「日本の気候変動2025」より

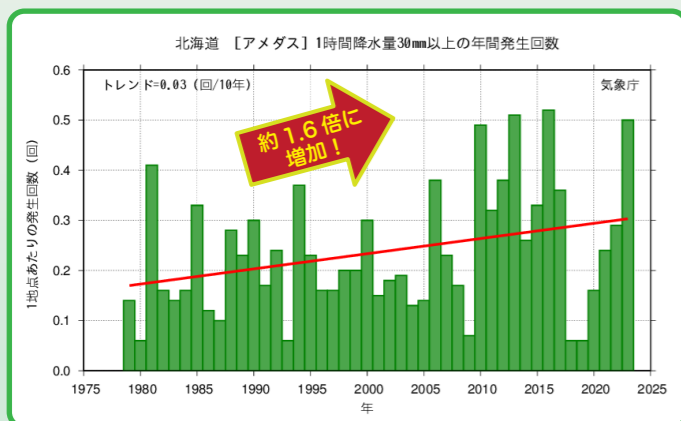


札幌管区気象台  
北海道地方の気候変動より



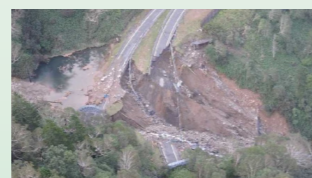
## 北海道では、すでに大きな変化があらわれています。

- 北海道全体では、1時間に30mm以上の雨が、1980年代に比べて1.6倍に増加しています。



札幌管区気象台「北海道地方の気候変動」

- 2016年8月に3個の台風が相次ぎ上陸し、大きな被害が発生しました。



日勝峠の通行止め



南富良野町での洪水

- 海水温の上昇により獲れる魚の種類が変わるなど漁業へも影響が出ています。

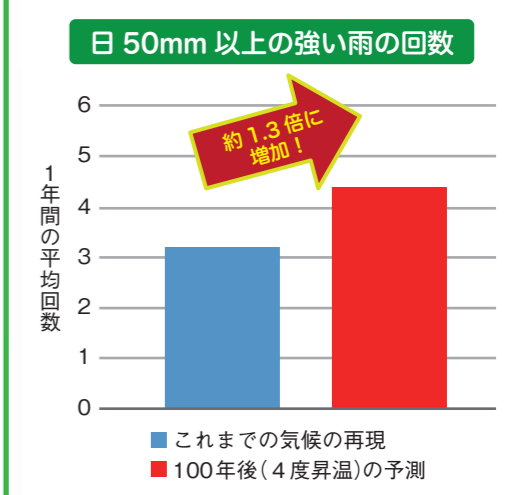


## 釧路湿原周辺の気候はどう変化するか、釧路湿原には どのような影響があるのかをシミュレーションしました。



### 温暖化の対策を行わない場合の釧路湿原周辺の100年後の気候の変化

- 釧路地方では平均気温は**約5.3°C**上昇します。  
釧路地方気象台・札幌管区気象台「釧路地方の気候変動」より
- 夏に降る雨の量は**約20%増加**します。
- 1日に50mm以上の雨が降る日数は**約1.3倍に増加**します。
- 発生する最大の日雨量も最大**約1.8倍に増加**します。
- 雨が降る日数は**約10%減少**し、限られた日に集中して降るようになります。
- 雪の量は少なくなり、春の雪解けも早まります。



### 釧路湿原への影響

- 夏の洪水は、回数が増加し、規模も大きくなります。
- 夏の洪水が増えることにより、釧路湿原に流れ込む土砂が最大**1.4倍に増加**します。
- 2016年には平均の年の**約8倍**もの土砂が湿原に流れ込み、その環境に大きな影響を与えました。2016年と同じくらいの土砂が流れ込む頻度は、気候変動により**約5倍に増加**します。
- 流れ込んだ土砂によって湿原の陸地化が進み、湿原面積の減少や生態系への悪影響が懸念されます。



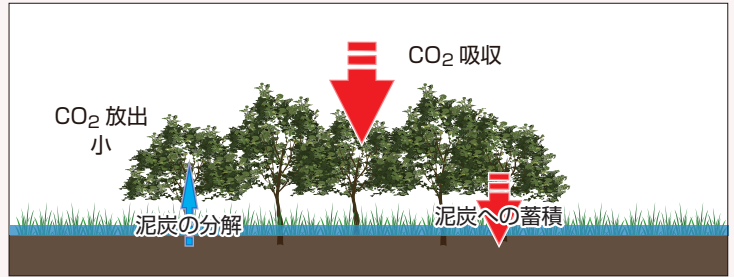
2016年の洪水のあとで久著呂川からあふれ出た土砂

このパンフレットは「気候変動適応情報プラットフォーム」で公開されている素材を使用して作成しました

# 釧路湿原と気候変動 湿原の保全の重要性は高まります

## 釧路湿原が気候変動を緩和し 地球環境を守る

植物は空中から二酸化炭素を吸収し、体内に蓄えます。釧路湿原には、それらの植物が枯れても完全には分解されずに「泥炭」として残るため、湿原の中には大量の炭素が蓄えられています。そのため、泥炭やそのもとになる植生を保全することは、温暖化の緩和に寄与します。



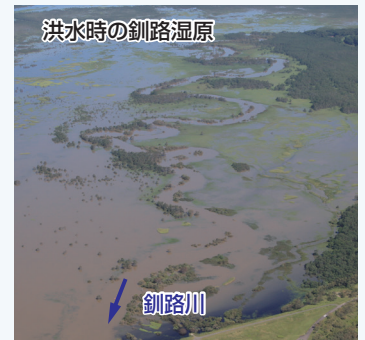
泥炭による炭素の固定のイメージ

## 釧路湿原が気候変動による 洪水から街を守る

釧路湿原は、洪水時には遊水地となって暮らしを守っています。



普段の釧路湿原



洪水時の釧路湿原

2016年の洪水で水を貯留する釧路湿原

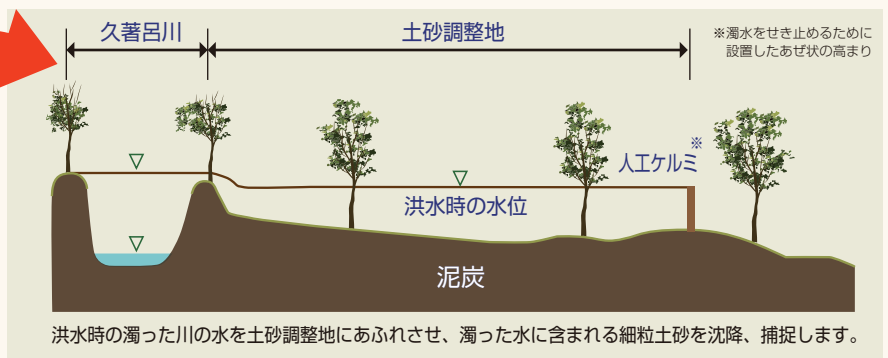
## 釧路湿原を守るためのこれまでの取組

釧路湿原自然再生協議会の土砂流入・水循環小委員会では、湿原に流入する土砂を減少させるための対策の検討・評価や、湿原全体の水循環メカニズムの解明に取り組んできました。

自然再生事業のひとつとして、久著呂川では流域からの土砂を捕捉する調整地を作り、湿原に流入する土砂の量を4割減少させ、湿原の植生を守っています。



久著呂川の土砂調整地



洪水時の濁った川の水を土砂調整地にあふれさせ、濁った水に含まれる細粒土砂を沈降、捕捉します。

土砂調整地の横断イメージ

## 釧路湿原を気候変動から守るために

釧路湿原を保全・再生することは、気候変動の影響を緩和し、洪水による被害の軽減にもつながります。これからも湿原の保全に取り組んでいくことが大切です。

※「地域適応コンソーシアム事業」の研究成果より、湿原の存在によって洪水時のピーク流量が30%減少したと試算されています

「地域適応コンソーシアム事業」の研究成果はこちら



釧路湿原自然再生協議会 土砂流入・水循環小委員会 釧路湿原自然再生協議会 HPでは詳しい資料も公開されています。

編集・発行：釧路湿原自然再生協議会運営事務局（北海道開発局釧路開発建設部治水課） 2026年3月発行

連絡先 TEL (0154)24-7250

自然再生協議会の  
ホームページはこちら ▶

